

**ヨルダン・ハシェミット王国上院議長の招待による同国公式訪問
及び各国の政治経済事情等視察参議院議長一行報告書**

団	長	参議院議長	伊達	忠一
		同夫人	伊達	祐子
		参議院議員	愛知	治郎
		同	小川	敏夫
		同	魚住	裕一郎
		同	山下	芳生
		同	東	徹
同	行	国際部長	鈴木	千明
		議長秘書	内田	衡純
		参事	大里	慶子
		同	西楨	亮
		警護官	山田	文彦

一、始めに

伊達議長一行は、平成二十九年（二〇一七年）十二月十日から十七日までの間、ヨルダン・ハシェミット王国ファーイズ上院議長の招待により、同国を公式訪問するとともに、エジプト・アラブ共和国及びギリシャ共和国を訪問し、各国において、議長を始めとする議会関係者等との意見交換及び政治経済事情等視察を行った。

今回の訪問は議会間交流を目的とするものであったが、折しも十二月七日（日本時間）、トランプ米大統領が、エルサレムをイスラエルの首都と認定し、テルアビブにある米国大使館をエルサレムに移転することを表明した直後の中東訪問となったため、ヨルダンでの要人との会談の際に、米国の当該決定を懸念する発言が先方からなされたことが特筆される。そのほか、一行は各国において、二〇二〇年東京オリンピック・パラリンピックへ訪問国の選手団を歓迎する旨表明するとともに、二〇二五年の万国博覧会開催国を決定する選挙が二〇一八年秋に行われることを踏まえ、大阪開催への支持要請を行った。

二、訪問日程

十二月十日（日）東京発

十二月十一日（月）ドバイ経由、アンマン着

ファーイズ・ヨルダン上院議長表敬、上院内視察、アブドゥラー二世国王陛下拝謁、タラーウネ下院議長表敬、上院議長主催夕食会

十二月十二日（火）

アンマン市内視察、ジェラシュ遺跡視察、在留邦人との懇談、アンマン発

十二月十三日（水）カイロ着

アブデルアール・エジプト代議院議長表敬、代議院内視察、代議院議長主催
昼食会、考古学博物館視察

十二月十四日（木）

世界遺産等視察、大エジプト博物館（GEM）視察、オペラハウス視察、在
留邦人との懇談

十二月十五日（金）カイロ発、アテネ着

ヴチス・ギリシャ国会議長表敬、国会内視察、第一回近代オリンピック・ス
タジアム視察、在留邦人との懇談

十二月十六日（土）

世界遺産視察、オリンピアス号視察、アクロポリス博物館視察、アテネ発

十二月十七日（日）ドバイ経由、東京着

三、ヨルダン・ハシェミット王国

（一）ヨルダンの政治経済事情と議会制度

ヨルダンは、イラク、サウジアラビア、シリア、イスラエルと国境を接する人口約九百五十万人の立憲君主制の国家で、国王が上院議員・議長の任命権、両院の解散権、首相や閣僚、裁判官の任免権、国軍の指揮権などの政治的実権を有している。二〇一一年以降、政治・経済の改革を求める抗議行動が各地で継続的に発生したが、国王の指導の下、憲法改正等の国内改革に取り組み、安定した統治を継続している。経済面では、石油、水等の天然資源に乏しい上に、周辺国からの多数の難民受入れに伴う負担が重く、諸外国からの経済・財政支援に依存する部分が多い。外交・安全保障面では、中東地域の穏健派で親米国であり、同地域の安定に重要な役割を果たしている。我が国との二国間関係は、一九五四年に外交関係を樹立して以来、皇室・王室間の伝統的友好関係を始め、極めて良好な関係を維持している。特にアブドゥラー二世国王は、これまで十二回の訪日歴を有する大の親日家で、二〇一六年にも来日している。

ヨルダンの議会は、国王による勅任制で任期四年、六十五議席から成る上院と、選挙で選出され、任期四年、百三十議席から成る下院の二院制である。参議院との議会間交流では、二〇一三年に参議院招待で当時のマスリー上院議長一行が訪日している。参議院議員団のヨルダン公式訪問は今回が初めてである。

（二）米国によるエルサレムの首都認定について

エルサレムへの大使館移転に関するトランプ米大統領の発言については、国王及び上下両院議長との会談の全てにおいて、先方から言及があった。

伊達議長からは、日本政府はイスラエル・パレスチナ間の紛争の「二国間解決」を支持しており、累次の国連安保理決議に基づき、エルサレムの最終的地位の問題も含め、当事者間の合意等に基づいて、当事者間の交渉によって解決されるべ

きであるという立場を採っている旨説明した。また、米大統領の発言を契機として、中東全体の情勢が悪化し得ることを大変懸念しており、本件の動向については大きな関心を持って注視していきたい旨述べた。先方からは、今回の米政府の決定は我々に対する挑戦であるとの認識や、中東和平問題が更に悪化することへの懸念、まもなく開催予定のイスラム諸国の首脳会合で成熟した議論がなされることへの期待等が示された。さらに、当事者のみの対話に丸投げしてはパレスチナ問題の解決にはつながらず、国際社会が一定の圧力をかける必要があるとして、日本を含めた国際社会が、公正で平和裏な解決をもたらすよう米国に働きかけてもらいたい旨の発言もなされた。

(三) ファーイズ上院議長表敬

一行は、ヨルダン上院を訪問し、ファーイズ上院議長及びヨルダン・日本友好議連に所属する上院議員等との会談を行った。

上院議長からは、シリア、イラク、イエメン、リビア等の周辺国で紛争が続き、同地域でのテロリストの活動が懸念されること、百三十万人ものシリア難民の受入れで社会サービスの提供が大きな負担となっていること等について言及があり、経済面やテロとの闘いの分野への日本の支援に感謝するとともに、今後も支援願いたいとの要請があった。また、我が国からの投資や観光客の増加への期待も述べられた。

伊達議長は、まず、上院の公式招待に感謝の意を表明した上で、ヨルダンが中東地域において政治的にも経済的にも安定し、暴力的過激主義との闘いや多くの難民受入れなどを行っていることを評価するとともに強く支持していること、日本政府は引き続き可能な限りの支援を行う考えであること、両国間の投資協定の交渉開始を受けて経済面での関係強化を期待すること等について発言した。

(四) アブドゥラー二世国王陛下拝謁

次に、一行は王宮府において、アブドゥラー二世国王陛下に拝謁した。国王陛下から、日・ヨルダンは歴史的にも極めて友好的な関係を有し、特に日本の皇室とヨルダンの王族は非常に深いつながりで結ばれている、天皇皇后両陛下に是非ともよろしくお伝えいただきたい旨発言があった。さらに、日本からの様々な支援に対する深い感謝の意が示され、日本との関係は、防衛や安全保障、テロとの闘いといった面でも進展しており、日本はヨルダンのみならず中東地域において大きな存在感を発揮しているとの言及があった。

伊達議長は、昨年国王陛下が参議院を訪問して以来の再会を光栄に思う旨述べ、ヨルダンが国王陛下の強いリーダーシップの下で、治安・テロ対策分野において地域の安定に貢献し、とりわけ、暴力的過激主義の拡散を防ぐことを念頭に、穏健なイスラム主義の普及に取り組んでいることに対し敬意を表する旨、また、その取組を日本としても支えていく所存である旨伝えた。

(五) タラーウネ下院議長表敬

続いて一行は、ヨルダン下院を訪問し、タラーウネ下院議長及びヨルダン・日本友好議連に所属する下院議員等との会談を行った。

下院議長からは、多数の難民受入れにより失業問題や公共サービスの不足等が生じ、不安定な状況にあるヨルダンに対して、日本から様々な支援がなされていることへの感謝の言葉が述べられた上で、国際社会からの支援が十分には行われていないとの認識も示された。また、国境周辺の治安対策の分野においても日本から技術協力を受けていること、ヨルダンは地域の様々な問題を平和裏に解決するために尽力し、テロとの闘いを率先して行っていること、海水を淡水化し国内外に供給するとともに、濃縮海水を死海へ送水して水位の低下防止を図る「紅海・死海プロジェクト」が大きな役割を果たしていること等について言及があった。さらに、万博開催については、日本への支持に前向きな発言がなされた。

伊達議長は、水資源の安定的な確保は国家の存続における重要課題であると聞いており、政府としても積極的な支援をしていること、日本の協力により建設中のペトラ博物館が、ヨルダンの観光産業の振興に大きく貢献する施設となるよう望むこと等について述べたほか、万博開催についての下院議長の発言に期待感を表明した。

(六) その他

上院議長主催の夕食会では、上院議長表敬に同席した議員とその配偶者を交え、各テーブルで和やかな雰囲気での意見交換が行われた。また、一行は、アンマン市街のアンマン城及びローマ劇場とヨルダン北部のジェラシュ遺跡を視察した。

今回の滞在中は、空港到着から出国まで、視察を含めた日程のほぼ全てにドゥーディーン上院議員が同行し、最終日の夜には、別れの挨拶のために上院議長自ら一行の滞在ホテルに訪れる等、ヨルダン上院の温かいもてなしを受けた。

四、エジプト・アラブ共和国

(一) エジプトの政治経済事情と議会制度

エジプトは、九千三百万人余りの人口を有し、アラブ及びアフリカにおける穏健な地域大国として、中東和平などの地域問題で積極的な役割を果たすとともに、イスラム・非同盟諸国との連帯や欧米諸国との協調も重視するバランス外交を展開している。約三十年に及ぶ長期政権であったムバラク大統領が二〇一一年に退陣し、翌年ムルシー大統領が就任したが、就任一年後に全土で大規模な反政府デモが発生し、その後暫定政権が発足した。国民投票による憲法修正案の承認と大統領選挙を経て、二〇一四年にエルシーシ前国防相が新大統領に就任、翌年議会選挙が実施され、二〇一六年一月に議会（代議院）が設立された。代議院は、定数五百九十六議席（公選五百六十八、大統領任命約二十八）で任期は五年である。内政では、低迷する経済の立て直しと治安対策が課題となっている。

最近では、二〇一五年に安倍総理、二〇一七年九月に河野外務大臣がエジプトを訪問、エジプトからは、二〇一六年にエルシーシ大統領が訪日して国会演説を実施、二〇一七年五月には衆議院招待でアブデルアール代議院議長一行が訪日する等、日本との要人往来も活発である。

(二) アブデルアール代議院議長表敬

一行は、エジプト代議院を訪問し、まず伊達議長とアブデルアール代議院議長との間で一対一の会談を行った後、エジプト・日本友好議連に所属する議員等も加わって全体会合を行った。

始めに、代議院議長から、日・エジプト関係は極めて良好であり、特に最近の議会交流の発展は特筆すべきものがあるとして、五月に訪日した際のもてなしに対するお礼の言葉が述べられた。また、大エジプト博物館に代表される日本の文化面での支援を高く評価するとともに、更に多くの日本企業からの投資を期待する旨の発言があったほか、エジプト人留学生の日本留学のための奨学金制度拡充の要望、日本式教育モデル校設置の努力に対する感謝等が表明された。

伊達議長は、十一月にシナイ半島で発生したテロ事件の犠牲者・負傷者への哀悼の意とお見舞いを述べ、日本は卑劣なテロを断固として非難するとともに、エジプトのテロ対策の取組に積極的に協力する考えであることを伝えた。

全体会合に移り、代議院議長は、改めて日本からの支援への感謝と更なる協力への期待を表明した上で、北朝鮮の核実験等について、東アジアの地域情勢に混乱をもたらすものであり非常に強い懸念を持っていること、代議院は世界の平和と安全のため、全ての核兵器の撤廃を大統領に働きかけていること、常に平和と安定を希求してきた日本に敬意を表すること等について述べた。

これに対し、伊達議長は、日本はエジプトの治安の安定と経済改革に向けた取組を評価しており、中東・北アフリカ地域の大国として、持続的な安定と繁栄を実現することを期待し、特に社会インフラの整備や教育分野に積極的に支援を行っている旨伝えた上で、支援事業の実施には代議院での承認手続が必要であるため、今後とも日本の支援事業に対する議長の力添えをいただきたい旨述べた。また、北朝鮮による核実験や数次にわたる弾道ミサイル発射については、国連安保理決議等への明白な違反行為であり、アジア地域のみならず国際社会の平和を脅かす許し難い暴挙であって断じて容認できるものではないこと、本院でも抗議決議を行い、抗議の意志を明らかにしたこと、本件への対処には各国の緊密な連携が重要であること等を述べ、理解と協力を要請した。

そのほか、両議長は、エジプトの治安状況、日・エジプト直行便の運航再開による貿易・投資・観光等の分野での交流拡大への期待等について意見交換した。表敬終了後、一行は代議院議長の案内により、代議院内の歴史的な展示等を視察し、続いて代議院議長主催の昼食会において懇談を行った。

(三) その他

一行はエジプト滞在中、考古学博物館、ギザの三大ピラミッド、太陽の船博物館、第二の太陽の船修復現場、大エジプト博物館の保存修復センター及び建設現場、オペラハウス等を視察した。なお、一行の入出国の際、特に入国時は深夜時間帯であったにもかかわらず、ハイカル・エジプト・日本友好議連会長が空港まで出迎え・見送りをを行うなど、温かい接遇を受けた。

五、ギリシャ共和国

(一) ギリシャの政治経済事情と議会制度

ギリシャは、人口約千百万人で、EU及びNATOの加盟国である。キプロス問題やEU・トルコ関係等、欧州の安定に関わる問題において、地政学的に重要な立場を占め、多角的な外交政策を展開している。二〇〇九年、政権交代を機に財政赤字の隠蔽が明らかになり、信用不安からギリシャ危機が発生した。長引く経済的苦境と緊縮策に対する国民の不満が高まり、二〇一五年一月には反緊縮を掲げるチプラス政権が発足したが、債権団との交渉が決裂して債務不履行に瀕し、危機が再燃、同年八月、新たな緊縮策によりEUとの間で金融支援プログラムに合意した。現在チプラス政権は、緊縮策を推進する改革を実施中である。また、ギリシャは、シリア等から欧州への難民の流入口となっており、二〇一五年以降、百万人以上が流入しているとされる。周辺国の国境管理の強化により、一時は四十万人以上の難民が国内に滞留し、対応に苦慮していたところ、EU・トルコ合意により、ギリシャからトルコへの非正規移民の送還が開始され、流入数自体は激減した。しかし、庇護申請審査や送還手続の迅速化、沿岸警備の強化、難民受入施設の拡充、EU内での難民再移転等が喫緊の課題となっている。

ギリシャ国会は、任期四年、定数三百議席（選挙区選出二百八十八、全国区選出十二）の一院制で、最近の議会間交流としては、二〇〇六年に河野衆議院議長が公式訪問、二〇一四年に赤松衆議院副議長が親善訪問し、二〇〇五年にベナキ国会議長、二〇〇六年に当時のハイティディス・ギリシャ・日本友好議連会長一行が衆議院招待で訪日している。参議院議員団のギリシャ訪問は、二〇〇二年の倉田議長一行以来となるものである。

(二) ヴチス国会議長表敬

一行はギリシャ国会を訪問し、ヴチス国会議長、ハジダキス・ギリシャ・日本友好議連会長等と会談を行った。

ヴチス国会議長からは、ギリシャと日本は長年にわたる友好国であり、G20メンバーである日本は、ギリシャにとって経済、安全保障等の面で重要であるとして、エネルギー、安全保障、難民・移民政策等について関係を深めていきたいとの発言があった。また、ギリシャの財政・経済は回復しており、二〇一八年八月に支援プログラムから脱却予定であるとの説明がなされ、経済面でも協力してい

きたいとの話があった。このほか、二〇二〇年までにエネルギーの二〇％を再生可能エネルギーとするEU目標に向かって努力していること、日本からの観光客の増加への期待、ギリシャ国内の造船業等について言及があった。

伊達議長は、十一月にアテネ西部で発生した洪水被害の被災者への見舞いを述べた上で、日本とギリシャは、自由、民主主義、人権、法の支配といった基本的価値を共有する重要なパートナーであること、海運大国として長い交流があり、二〇一九年には通商修好条約の締結から百二十周年を迎えることについて言及し、東京オリンピック・パラリンピック開催を機に、オリンピック発祥の地であるギリシャとの関係強化の機運を高めていきたい旨発言した。

(三) その他

一行は、ギリシャ滞在中、第一回近代オリンピックが開かれたパナシナイコ・スタジアム、世界遺産のアクロポリス・古代アゴラの遺跡、アクロポリス博物館、古代の三段櫂船を復元したオリンピアス号・軍艦博物館船アヴェロフ号を視察した。

六、終わりに

今般の訪問では、各国立法府の全議長と会談を行い、二国間の友好協力関係の発展のため、議会間・議員間の交流を深めていくことの重要性について認識を共有することができた。また、合計二十五名の在留邦人と懇談し、各国の経済・社会・文化事情、対日感情、国際機関の活動、現地で活動する上での課題や苦労等、現地に在住する方々ならではの視点から話を伺い、理解を深めることができた。今回得られた知見は、本院の議会間交流の発展や、我が国と訪問各国との友好親善関係の一層の深化のために生かしてまいりたい。

また、各国訪問に当たっては、ヨルダン上院議会関係者、並びに柳秀直駐ヨルダン大使、向賢一郎在エジプト大使館公使、清水康弘駐ギリシャ大使、梅澤彰馬在ドバイ総領事を始め、在外公館員等多くの方々に多大なる御支援を得た。お世話になった皆様に対し、心より御礼申し上げる。